

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 栃木県
都道府県 栃木県
対象地域 真岡市、芳賀町、さくら市
対象品目 大豆

新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

本県では、大豆「里のほほえみ」に品種転換が行われたが、収量及び品質が不安定であり課題になっている。その要因として、大豆栽培では一般的に土壌分析が行われておらず地力に応じた施肥設計が図られていないことが考えられる。また、地力が低い場合には、化学肥料が多投入されるものの目標収量が得られないことも多い。そこで、農研機構で開発された水田土壌可給態窒素の簡易・迅速評価法を用い土壌診断を行い、低地力圃場においては、従来の化学肥料施用に替えて鶏糞堆肥または豚糞堆肥を利用する。堆肥については、ペレット堆肥を活用し、ブロードキャスターを用いて散布することで省力化が期待できる。これらの技術が確立できれば大豆生産の安定化と省力化の両立が期待され、本県大豆生産者に広く普及することができる。

現在の栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり



グリーンな栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R9	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	572	▶ 685	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	1	▶ 152	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	1	▶ 152	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	1	▶ 152	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化成肥料を主体とした施肥体系	鶏ふん等有機質肥料の施用 ▶ 可給態窒素簡易迅速評価法等に基づく施肥設計	化学肥料の施用量削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化成肥料由来による基肥窒素施肥量（鶏ふん堆肥の場合）	3	▶ 0	10a当たり基肥窒素施肥量（kg）
環境 省力	化成肥料由来による基肥窒素施肥量（豚ふん堆肥の場合）	8	▶ 4	10a当たり基肥窒素施肥量（kg）

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

大豆生産を行う農業者・組織に鶏ふん等有機質肥料の活用事例を紹介し、化学肥料の低減による環境に優しい栽培体系を普及促進する。

関係者の役割

関係者名	芳賀農業振興事務所 塩谷南那須農業振興事務所	J A		
役割	・当該技術の検証	・当該技術の広報、生産部会 員への波及		

その他